860
44

二 重衡被斬
三 大地震
四 紺掻
五 平大納言被流
六 判官都落
七 嘉応之沙汰
八 六代請受
九 泊瀬六代
十 六代被斬

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

口訳 860-44

重衡被斬

去程に三位の中将重衡の卿父
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

露の命をあふの末まつ
ほどもよし笑しかは
ものも思ふ我今一度
ことも忘れもしそさ
まーかハ雁信より外の慰なくして
明ぬ暮し淀の
濃の武士の
春の苦心
又娘も最後
夏を我一人の
空事わし年
ど云ふ生

なの事とも云ふ事ハ
ハ武士も若衆なども
ござのうちまで
ござ一ツもなく中々銘々
人と入ふ
侍の局とも人の御通り

中々般の兵介家良へ御通り候が立ち
ながら御足ふ参ら入食事
せらるゝ方ハ
打鳥帽子着ける男共
ござて走りもて見給ふ
綾よ寄着ふ

除近ウ
先へ入給へと宣ひて
分てもと先立物也中将河簫笛
かはく流ともくらし
春秋は四一の名也成亀
末の事ても罪の報ひ
業を南都の大衆
急て京極会釈
今は浮世の心
深秋七一夜
其後髪も信

身に罪咎を作へて心とも仕せす
さる程額の髪を捨分にけれ共あやしき
瞳切て是を信と活給ふ事
北方甲斐〳〵しく思ひ
忘の色深く浸る事を
捨て去年の春捨

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

夜着のかさみも脱ぬかし北のまれ
返事に（歌ハ）脱かねる衣も今ぞ合
守護の
明ぬ間の信をもつて仮ハ武士のこと
すまじ必一ツ蓮ス
さも思ふ事をもそこそこ引置ぶ
消ぬ今も心の儘にてこそ雁
中将此心の中をそこそこ推量ぶ
だとてひがら人果ぬ身をそこそこ
号切てぞ去ぬ三重
事も有ぞ誠ふいせそこそこ
事も有ぞ張と思ひ
去り度も思ひ心弱そこそこ

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

感果の道理極成(ジャウ)せり。佛敵法敵の逆
臣なしバ生(ラ)ん亀からく東大寺の
大堰(ガキ)をめぐらして堀頸(ほりくび)
鋸(のこぎり)ならや斬べきを貪欲
叶(かな)ふ貪瞋(とんじん)一ならねバ
物ゝ穏(おだやか)ならず。武士(もの)ゝ
ふ浅ましき者ども

斬(きる)ゝ亀(かめ)しくも
ゝ(ゝ)の端(はし)ゝ
数千人の人衆守護の武士(もの)ゝ
萬(よろづ)ゝ(ゝ)数(かず)を知(しら)ず。
年(とし)来の好(よしみ)木工右馬允知時(ともとき)ゝ云(いふ)もの

あるに御最後なれば
おもひもかけぬに
人のもとへ
敵の御前へ参り
最後共見まがふ
ばかりなり
御供の
御供の
御供の

まし給ふ河水の如
加時う将軍の神の指を解て仏の
無中将殿よ云へさ
如仏に向て申給ふ
玉ふ逆と作り八萬藏の聖教を焼亡
ども仏天王如来の記別を
前作の罪業消こと不
御ま値遇せ逆縁
得道の因となる今
実全り愚意ん参
理りをもて
父の命を背き命

今我等如(ベツ)来を
ま(コ)こと
ま(コ)こと
罪報を
ま(コ)こと
ま(コ)こと
ま(コ)こと

千人の大衆守護の武士共も皆、狸
神をや、漏し給ふ。七日
そ、ま、主の多の仰
人なれ、ども頼
ま、計、ま、志
ま、侍へ、少給へ、其
ら、ん共、龍
て、養、ま、迎
ま、ま、実
ま、ま、ま
ま、ま、ま
ま、ま、ま

大地震
志賀、家ヲ焼キ潰民ノ代ヲ成テ
瀬戸ヲ国司ヨリ頂ヒ志賀ノ領家ノ
也ケリ。上下安堵シテ覚シ様ナ
同キ七月九日ノ日北午ノ刻計ニ大地
鞭ヲ打(ウツ)(怒下一ニ一チ)動テ。震ル事
赤県(セキケン)ノ如(ヤウ)(化ア)(中ヵ)

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

白河の辺に六勝寺皆破れこぼれ
九重の塔も上八重
霞院三十三間の御堂々々の神社仏
閣、怪の民屋たゞ
雷の如くどよめく摩訶の風
天開けて日の光もさすが老ぬ
竟に朝衆悉く心ぜん
遍照辺照ともがくのおしこ重
河水俄に逆流して海潮
舟も。波に行駒も。足の立所
無き一つ大地裂けて水湧出で磐石

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

さまざま夏籐（読）（白）八九十七八十の者も。
世の滅せるなど云事ハ。
まれなり。されど事ある時ハ。
法眼ハ新延野へ御幸ありて。
重部芸を見て。
さて扨も扨も大地震とて。驚き

出家なれバ河辺の院の
河所六條殿へ還御ありぬ。御供の公卿殿
上人。みな安からず計の心ぞ。
弟の法眼屋へ南庭より。
也し伯次主よりの風
ぶ。汗筆有ル女院官

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

仏行（ヲコナヒ）をしつゝ天文博士ともし
ゐ、
国喜へ駆（カケ）あつまりゐ、
大北山（オホキタヤマ）のそばだてる事（コト）
ゐ、
怖（オソ）しいなんども。踏（フム）
潮（トラル）三年。二月（アア）八日の日（ヒ）
東大寺（トウダイジ）の仏乃御頭（ホトケノミカシラ）
天慶（アアニル）二年。四月二日の日の大地震（オホナヰ）
清寧殿（アアアア

（ト）ル　ノ　ア
河をよ海原も流ス（シヅ）ム大名公卿ハこゝら
カ　　　　　　　　　　ノ　ア
まで（ス）ゝ或ハ頭へと（ス）引て大路を渡さ（シ）ル。
ノ　ア　　ル　ノ　ア
或ハ書（ス）る引（ス）もの。遠流せらる。
ノ　ア　ア
家の態（ウス）をまでせの（ス）ゝ
ル　ノ　ア　ア　ア
中（四）皆（ル）ア
カ　ア
なりもの…

（ル）

八月廿三日。高雄の文覚上人。
鳥頭義朝のうつ（ス）ゝ鎌田兵衛が頭（コ）を
ゝ（ス）ゝ
取（ス）て。首（コ）にさ（ス）ゝて。
ゝ　ゝ　ゝ
都（ス）ゝへ上（ル）ぼり。関東へ下（ル）ぬ。
ゝ　ゝ　ゝ
清盛公の頭（コ）をも取（ス）ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　

重藉なる髑髏を一つ白布にて包んで。
あらせられたを幸ひに。
討取て活も。一向父の首へと信ぜらるゝ。
事ぞ今又易々
ら仮ますて下仕ふまつる縛搦の男。

平治の逆乱獄舎の前に
懸もして逆臣悪ひまする人もなかり。
事を悲んで。時の大理尊達
中清盛公。長清の能殿そ。流人ある。
打ちぬまでも。来たのを。
易々事もよ和。

覚寺と云所の深き藏めて重たる
けるとぞ。今又尋ぜおて
の書共にぞ。ありまする。白雪を洗ふが
ごとく。入ルこと少へしかば。深き仕掛の
端まで。通る我ゝ。高き
倚廬の窗より。
雪とバ大床より立。我ゝ
雪へ。清水汲ぶるぞ。哀なる。
大名小名皆涙と流さず
中ニ有ア
石巌のさゞれと伐ル
勝長寿院とぞ。号せらる。

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

平大納言時忠の卿能登
國へ流され給ひしが
八月廿二日平家の餘黨の都の中へ殘留
ありと聞へければ國〳〵へ遣はさるゝ
ものどもを召返さるゝ事ありしかば
まづ公家一門せうとの

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

撫ゐて時はかり打ひそそき追敬ふ余ハ
人恵が首ざしより肩つきまで二種の
神器を肌ゆるしの御衣ぞ迎へ入るゝ
御車に御手さしかけ給ふ姿ハ
焼亡ありしかゝる時なの平安
好婦春日院の御流ぞ偲ばる

思ひそめしかゝる様の事
かゝす判官の頼ミ敬ひ
ぬしをもどかしく
宮の修法時節にて
かゝる流言横流
年十六なりし
許ゆる思ひ
日より大納言の

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

悩む前舟の中より積今日そヒヲ雲名れ
ア斗アンルアアア

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』 請求記号 860-44
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

奉ぬ（ナシ）行うハ二度取
逢ふ（ハ）疾く首（ヲ）刎ね
（ハ）ア（ス、一元ノ一ノ一）うつばとて（ラ）其の（ヲ）
（一ア）ア（四元ノ）参れ人（ヲ）於（マ）ても（ナシ）
（ア）

判官都落
読
義尓足（ナ）ず新三帝（ト）云雑（ザツ）色（キヤウ）を奴
（サカ）ま藤なし（ク）賢々布着ていたる（ナシ）
候へばこそ（ナシ）判官（ハ）高名（ヲ）
ぬ（ナシ）我よ（ト）名乗（ヲ）せよ（ト）云（ハ）ん（ア）斬（ラ）

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

とゝもに病と日ゝ増に重ければ
新しき申ゝし鎌倉殿へ
貴き御寺範頼と討ち
なし宣へゝ頼りし辞し
いとゝもいまゝし北条を宮方
もゝゝ物具して御船
鎌倉殿和殿も又九郎が
ひよつこり宣ひまする御詞も
敵り物具重きと
着り不忠なゝ由共
赤牧へ書八書病ゝ
詮とゝみの事百日ゝ千
牧の起請と書

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

大夫判官義経院参して大蔵の卿泰
経の朝臣とうて参らせたまへ
新帝文ものたまはせ摂津国一の谷
長門の赤間関豊前国田浦
門司の関をも事なく過ぎ
西海をも静まりぬ都へ攻のぼらんとの
聞えしかば御所をば都をば
入洛一天と静まりぬ海
聞えしかば勅賞
談言に依て義経討手
鎮西へ下向すべしと
流の藤の河下文を一通下
なほ申し入れ

すゑ〻ハ名ばかり
諸卿ハ
ゆるされ
ぬ
ハ
ハ
ハ

前を通しながら矢一ツ射す
なかを通しなば遥倉殿の返り風をさ
ふきかくるまゝ六十余騎の第一
ごとく下ゝ高声に攻戦ふ判官大に
余騎取てかへし大田の太郎
中ゝ矢竈散々に射る義経
頼基馬の太腹射させじと
退ひかせ留て活き矢射る兵共家乃
御方二十余人が頸斬
頭を吹とり首逸
捕虜大物浦の

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

いと頼しげなる給方の三郎維衡信
正盛先生義数十郎藏人が来たる船を
浦に留めに打上らまてて
舘さまより西の風北忽ち
怒号ふ波荒く同七日の夜丈余
小條の西郎時政義数騎の軍兵を率
伊勢守源義綱等に前守行家ら
長吉討せつる由の院宣なり
せつるまゝ法皇御
中アアル二日の日ら院参
法皇御前なる給の朝臣
アイ 一声アノン 元アノン 元アア スリ テケ トル

御命に文の成さ様同八日の朝の卯の
申秋より後冬経討
涙宮と我
奏す唯世間の不定
悲

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

六代請受

去程は北条の宮前時政の邸の守護
少て休らひまゐらせ候。平家の子孫と云ふ
人多き由なれ共。皆漏れ亡びしかば
其筋たえ果する輩あらず。よて今に
八幡宮に相仕へ奉る。京中の上下

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』 請求記号 860-44
ガラス使用

家随ら加茂り。勸賞蒙りて身ぬ
まゝうせてもし。勅りしかバ幾ら
せさしめ千萬の子
婦ども。那ら何の中將
殿の君達なるゝ云間父母
うもハ乳母の女房が申ける。
房が。若狭守ごゝ云間。
水ら入ヱよ。水ら長
初一見ヨリ 母の悲ミ乳母が勸ら
説カ 中ま忠小松の三位中將惟盛卿の若君代
汀の前ごゝ多汀摩宮岡
よゝ幕も水ごゝ長ら

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

宮漏様人々まゐり給ひて。
小八入まゐる。そなた一定喜ぶ
ぞと仰せらるゝ。
次の日北条萬蒲谷戸圍人々入まゐれ
ど。小松の三位の中将惟盛卿の若君
代官前のそまつに出来て。孫舎殿の御代

宮こして。北条の出家時政が。唯今池殿
参れとて。田上夢の心地して。ほゝくと物も覚
ず。中ノ丸ニアル藤五。弁藤五。弁藤五。アノ一ノ上ニア
ル一声。武士ども四方八方ニ一二ノ丸ニ二声。一ノ丸ニアル
ア一ノ三ノ二ノ三ノ一ノ丸ニアル一声。
ぞ。ひしめきける。

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

扨も若武者は心懸よく縫ひ給ひて
帰らんと請ひて頼みて帰り給ふ。
母も姫も有難く思ひ給ふ。
長々の御世話忝なく存じ奉る。
母よりも若君の御方様
こそ御ありがたき御事の数々厳と
て。御褒美を賜はりて出で給ふ
御物着も進ぜ。御髪も
こしらへ黒木の数珠の
厳と
母よりも感ずる若君
姫よりも別れ
て父のまします所へ
我も乗らんと
乳母も供も

[illegible]押殺し刺殺様ざまに失ひ申
[illegible]ば我ながらかくしてうき
[illegible]おや長らへて宋てう[illegible]頸
[illegible]乳母[illegible]年ごの許へ遣して。時々[illegible]
[illegible]ともの。甚だ[illegible]恩愛の[illegible]悲しき
[illegible]泥[illegible]意[illegible]
[illegible]落してもの業。

日[illegible]身代放たず
[illegible]人の物も着ず持
物[illegible]頼[illegible]掛[illegible]人[illegible]厭
[illegible]裏表[illegible]買てや慰[illegible]今[illegible]早[illegible]
[illegible]一人[illegible]今[illegible]
[illegible]此三年[illegible]間。夜晝肝心[illegible]
[illegible]設

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

ゑて覚(サメ)める事の悲しさよ
入(ス中、一ル)アア
語(ナガ)らひ明かし兼(ネ)て、
アアル
涙川浮(ウ)き計(ばか)り漕(こ)ぎ別(わか)れ、
アア色一ル
ア
曙(ア)けゆく空(そら)も、
イ
イ
ス十
朧(おぼろ)なる月(つき)の影(かげ)、
イ
ア
ア四ル
イ
林藤(ハ詠)
イ
ア
ア三ル
暁(ア)け
ア
ア
ア

亡父の祥七回忌なる故。
我が住む家にて。仏事を行ひて帰
我が住む家にて。申されば母と泊り給へと仏事書
てよび給ひぬる。斎の
説母の如く攻てゐ心の有れすさまじ。大覚寺へ
給ひて。若干の銭を乞ひ受て泊り行
行く。或人のやもめの奥高雄
山寺の聖。大覚寺へ鎌倉
殿の御ために。
数日籠り。
おはしまして。
おはしまして。
おはしまして

生捕(イケドリ)奉(タテマツ)りて、今年(コトシ)十二(ジフニ)歳(サイ)なる若(ワカ)き男(ヲノコ)、日(ヒ)頃(ゴロ)武(タケ)き振舞(フルマヒ)して、従(シタガ)ひ仕(ツカ)へ侍(ハベ)りつるが、さる事(コト)出来(シユツライ)ぬれば、力(チカラ)なく縛(シバ)り捕(トラ)へて侍(ハベ)りつる。其(ソ)の前(マヘ)に倒(タフ)れ伏(フ)したる者(モノ)も、皆(ミナ)手負(ておひ)ぬ。為方(シカタ)なくて、かく召(メ)し捕(トラ)へ奉(タテマツ)りぬ。事(コト)の子細(シサイ)は、本人(ホンニン)喚(サケ)び侍(ハベ)らん。乳母(めのと)の如(ごと)く候(サブラ)ひつる者(モノ)、一人(ひとり)候(サブラ)ひつる。事(コト)の子細(シサイ)は、彼(カ)の者(モノ)に問(トヒ)給(タマ)へ」と申(マウ)しければ、

「然(シカ)らば、其(ソ)の者(モノ)召(メ)せ」とて、召(メ)しければ、乳母(めのと)参(マヰ)りたり。

「事(コト)の子細(シサイ)は、何(イカ)に」と問(トヒ)給(タマ)へば、

「何(イカ)にも、此(コ)の殿(トノ)の御前(ごぜん)の池(イケ)に、鴛鴦(をしどり)の雄(を)雌(めす)遊(アソ)びて候(サブラ)ひつるを、此(コ)の殿(トノ)、弓矢(ゆみや)を以(モ)て射(イ)給(タマ)ひて、雄(を)をば射(イ)殺(コロ)し給(タマ)ひて、雌(めす)をば生捕(イケドリ)にして、取(トリ)給(タマ)ひて候(サブラ)ひつるを、此(コ)の若君(わかぎみ)の御覧(ごらん)じて、『あの鳥(とり)生捕(イケドリ)にして参(マヰ)らせよ』と仰(おほ)せられつるを、『此(コ)の鳥(とり)は、雄(を)をば射(イ)殺(コロ)されて候(サブラ)ふ。雌(めす)をば

北条の四郎時政とぞ聞こえし。
かの重光（イテ）が前（サラ）に身（ミ）を投（ナ）げ伏（フ）せ、
乳母（メノト）の女房（ニヨウバウ）を抱（イダ）き奉（タテマツ）りて泣（ナ）き悲（カナ）しむ事（コト）限（カギ）りなし。
御（オン）ぐし押（オ）し切（キ）りて、武士（モノノフ）ども捕（トラ）へ引（ヒ）き立（タ）てて、
遥（ハルカ）かの沖（オキ）に浮（ウ）かべる船（フネ）に乗（ノ）せ奉（タテマツ）る。
重（シゲ）の前（マヘ）の斬（キ）られ給（タマ）ふ心（ココロ）地（チ）、
延（ノ）べて言（イ）ふ計（バカ）りなし。
御（オン）身（ミ）に代（カ）へ奉（タテマツ）らんと、
思（オモ）ひ切（キ）りける母上（ハヽウヘ）和御（ワゴ）前（ゼン）

[illegible]
前（サキ）々身代（ミガハ）りに立（タ）ちもやらで、我（ワレ）も我（ワレ）もと
御（オン）前（マヘ）に参（マヰ）りて、
御（オン）暇（イトマ）乞（コ）ひ申（マヲ）し給（タマ）ふ。
御（オン）身（ミ）も身（ミ）を投（ナ）げ伏（フ）せて、
御（オン）ぐしを抱（イダ）き奉（タテマツ）りて、
泣（ナ）き悲（カナ）しみ給（タマ）ふ。
御（オン）乳母（メノト）の女房（ニヨウバウ）、重（シゲ）の前（マヘ）を抱（イダ）き奉（タテマツ）りて、
泣（ナ）く泣（ナ）く細々（コマ〳〵）と語（カタ）り申（マヲ）しけるは、
「[illegible]
[illegible]
[illegible]

白

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

内一朝の間に叶て事こと外度
度の事なれば且ずんばあ
次第をみのらんに於ては
御藥師如来を受頂神仏
忘給ふべからず。頼て甚暁そ。
南無五智如来金剛界大日
薄伽梵毘盧遮那尊
四統一ハの母と乳母の女房が心の
先生斯ぞ有ばこそ。
詞なれば有事ならじ思ひ
ぬ。才四の事も延
丁寧観音の門助なれ
社。

其外度
事
給ふ
ども
其暁そ。
身の仏ごころ

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用

祈り頼もし気(ゲ)よりて下りぬ。海
観音の御助(ヲ)かなでもあるべき
なりけり。暁(アカツキ)も近(チカ)くなりぬ。又家(イヘ)
出(イデ)しけるに、乳母(メノト)の女房(ニヨウバウ)(以下乳ケ)、
衣(キヌ)の裾(スソ)を引(ヒ)かへて泣悲(ナキカナ)しむ
声(コヱ)、いと哀(アハレ)なり。
暮(クレ)しもか悩(ナヤ)ませ給(タマ)ふ者(モノ)が。重(オモ)き事(コト)を。

の下(シタ)に具(グ)せられぬ。若(ワカ)君(ギミ)請(ウケ)て上(ノボ)せ
給(タマ)ふ心(ココロ)ざしこそ有(アリ)がたけれ。
(以下ハ十四ウ)
(以下ハ十四オ)
(以下ハ十四ウ)
(以下ハ十四オ)
(以下ハ十四ウ)
(以下ハ十四オ)

者も候へ申ス。母と打ち寄るが有
そと同伝（バ）人の見参から
賜よ持成（シ）汁飯（ブ）なく（リ）給（タ）
入給（タ）へ時（カス）ハ例よ
波（シ）給ひ候へ母よ仕そ有
祖（ヤ）しき心様候よ長くて
完（ケフ）て飯参（マ）ら申
計（ヨイ）候（ヤ）。今日（ケフ）ハ
候（ヤ）。那（ア）ハ
候（ヤ）の日何」の時。逢（ア）ふ
浪（ナミ）の命と思（オモ）ひ給（タ）へ
掌（イカバ）計（ヨイ）ら参（マ）ら
伝（ツタ）へ候（ヤ）ハ。何（イカ）よ御

候（ヤ）ハ。御（ゴ）ん
候（ヤ）ハ。御（ゴ）ん
候（ヤ）ハ。御（ゴ）ん

首を高野の河より細
行者疑ふ石山寺
母上時の程も當なし
法師二人のそれ海
すて暁る都成
十二月十七日北条四郎時政
御輿の左右
芸州
線の御使
四の御成流
母上乳母の女房
雲井の餘行

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

見ても心苦う覚えて、法も
の障り滅すると
藩会を遂行て、勝ちよう
と問ふ。二人の者云、源
義朝の討死も
然も春も廿を過ぎ、一日
神藤也、源氏押寄
給ふ。我々君
御供時も今生
の
御暇申て、故郷
へ下向とて、
御髪の肩より
長く、御姿
厳敷して、前
後に供揃へ
護の武士云ふ
心の坐なる
て、
```

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用
```

其後君、両手を向て手を
仏メ百遍計リ唱ゑ給ふ
墓の。将野ノ工藤二親後。切手よ撰ん。
奈良引例「左」の官ゟ
左廻リ。敗ゟ斬リ其ゟ
ゟ。が見も同
心も消果ゟ。ゟ
ゟ。

念。
ゟ。
ゟ。
ゟ

唯今切ゝる歟ゝ者ども寄集
ゝ而ゝ此ゝ由ゝ心ゝ得ゝ覚ゝ
ゝ而ゝ猶ゝ覚ゝ而ゝ
ゝ而ゝ脱ゝ而ゝ指ゝ
ゝ而ゝ跑ゝ
ゝ而ゝ北条ゝ
ゝ而ゝ
ゝ而ゝ
ゝ而

十二返諦て。神妙
なれと。斎藤丑斎藤
北条の家の。郎等
滝口けり

泊瀬六代
名残を見むも
諸共に氣
氣也此若君の父三浦中将殿の
軍の大将軍まして
事もなしと叶よと宣ふ

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

築地の前より走り出て屋と屋とを推て飛
事ほど若君母上を
間ひまゐらせおいこゝに
禁中を越えて
近う人の傍ぢかに

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44　　ガラス使用

一ト和（ヲ）篠り（ス）夏なる（ル）も謹（ン）
侍（ン）哉（ン）ふる（ル）高雄の文覚（ン）博の許（ン）の
僧（ン）毎（ン）ト代（ン）昔（ン）重の御（ン）敵（ン）と（ヲ）
相（ン）ふる（ル）様（ン）朝（ン）
文の私（ン）も（ン）（ン）（ン）
（ン）も（ン）（ン）一向（ン）
文覚坊の文字

（ン）（ン）（ン）（ン）
（ン）（ン）（ン）（ン）
（ン）（ン）（ン）（ン）

叫ひ

政道を一向卿の局のまゝ
会し人多し。折ふし王餓宮
天下を恨と聞もし者
を愛せしかど宮中
多きを王のおもてもち
世の庶さ諂とんで心
大臣らも経綸正理
文懈らせ給ひ正理
せれども天性此
第一の人まゝ
ふもいまいまし
鼎ナ進らせ度心

朝の間そく思もきすて斬て頼朝建
久十年三月十三日年五十二そうも
おひしかば大覚頼もの謀叛
の由そく大覚怙の寵臣
二条猪熊なる者官人ゆまさ
者を頼朝そく流罪の間つゐ流罪
文覚ありもとも老の波
こゝもあ今の物とも論もなし勤力
少しもこゝもあ都の序辺すも事すして
遠そく流罪の由を流さ
者よも安うら称いう様
由へ迎へ取すもそく上りねぐり

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

上りおやかもこの君を篠うち銘打の玉
と愛せさせおひしかど文覚ケ御ふ
悪口申もせ松ますま御傳教
給ひ国ぬ多年の遠々ご流
没の国と定られし事なれば
不思議なし其国よ
荒て常ご御前一人
不審ものう松映一人
前ご二位の禅尼
源氏源倉殿
ご二ろ判

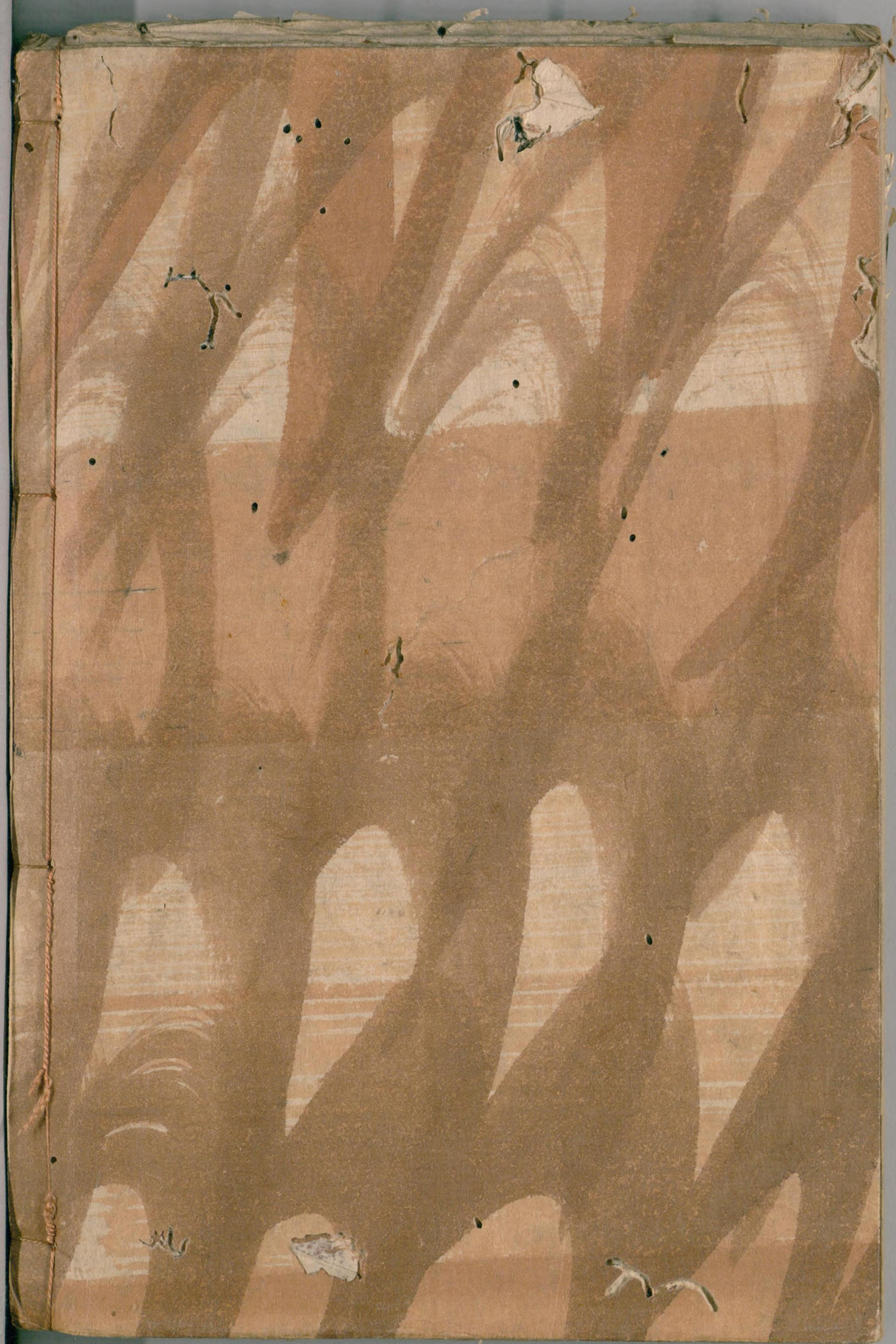
国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44
ガラス使用

指ハ[illegible]安判官資[illegible]
かゝらん[illegible]擇て[illegible]
駿河国の住人岡辺の権守泰綱
[illegible]仰て田越川の端[illegible]
もおひつゝ十七の年[illegible]
思ふもの[illegible]
観音の御利生[illegible]
禅師御前[illegible]
永々後[illegible]

860
44

国立国会図書館　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『前田流節附平家物語』　請求記号 860-44

ガラス使用